

## 5-1 文字列の操作

### ● 文字列の利用目的

文字列の作成、文字操作、メッセージなどの画面出力などで利用します。str関数は文字列以外のオブジェクトを文字列に変換できましたが、ここでは直接的に文字列を作る方法を解説します。

### ● 文字列操作の書式

```
'文字列'
"文字列"
"文字列1"文字列2'
"'文字列1'文字列2"
'''文字列1''', """"文字列2""""
```

Pythonのテキスト・データは、strオブジェクト(文字列)として扱われます。', ", または3重引用符で前後を囲むことで自動的にstr型になります。

演算子、デリミタ、印字可能なASCII文字などが含まれていても文字列として扱えます。複数の文字列は演算子+で結合できます。

文字列の中に'や"を含めたいときに同時に両方を含めることはできませんが、'の中に"を、または"の中に'を含めることができます。

3重引用符で囲われた複数の文字列はタプルに格納されます。

### ● 実行例

#### ▶ 文字列の結合

演算子+を使うと文字列同士を結合できます。

図1の1~2行目で変数str1とstr2に文字列を格納し、3行目でそれらを結合して変数str3に格納します。

4行目のprint関数で変数str3に格納されたオブジェクトを画面出力します。

図1  
文字列の操作1...  
文字列の結合

```
▶ str1 = 'Hello World'
str2 = '! '
str3 = str1 + str2
print(str3)
```

Hello World!

#### ▶ 文字列と数字の結合

文字列と数字を結合するには、数字を文字列に変換して結合します。

図2の3行目で変数num1に格納された数字をstr関数で文字列に変換した後、演算子+で文字列同士を結合しています。

4行目のprint関数で変数str1に格納されたオブジェクトを画面出力します。数字は文字列に変換して、オブジェクト型を文字列に合わせることで、他の文字列と結合できます。

図2  
文字列の操作2...  
文字列と数字の  
結合

```
▶ str1 = 'Hello World'
num1 = 2021
str1 = str1 + str(num1)
print(str1)
```

Hello World2021

#### ▶ 3重引用符の使い方

図3の1行目で、3重引用符で囲った2つの文字列を、区切り文字で分けて作ったタプルを変数aに代入しています。

3重引用符として、'または"で文字列の前後を囲い、複数の文字列をカンマで区切ります。文字列が1つだけだと、そのオブジェクトはタプルではなく文字列として変数に代入されます。ただし、区切り文字としては必ずカンマを使用する必要があります。

2行目でtype関数を使って変数aのオブジェクトの型を確かめています。

4行目のprint関数で変数aのオブジェクトを画面出力します。

図3  
文字列の操作3...  
3重引用符の  
使い方

```
▶ a = '''文字列''', """"文字列""""
type(a)
```

tuple

```
▶ print(a)
('文字列', '文字列')
```